

関大生の思いが バンクーバーへ 海を渡った

寄せ書きに込められた250の熱いメッセージ

ガンバレ織田!!

ガンバレ高橋!!



バンクーバー五輪 フィギュアスケート男子シングル 高橋大輔・織田信成



関大生が一斉にペンを動かした。バンクーバーオリンピック出場のためカナダ入りしている高橋大輔選手、織田信成選手のために。

2人を応援する思いを寄せ書きにしようと、ピア・コミュニティの呼びかけで学生たちが集まった。千里山キャンパスの凜風館で2月9日11時にスタート。タテ90センチ、ヨコ1メートル50センチの台紙は中央にカイザースのロゴと「ガンバレ高橋」「ガンバレ織田」の文字が躍っていた。テーブルに広げられた高橋用2枚、織田用2枚の台紙に腕をいっぱい伸ばして書き出した。ピア・サポーターたちに応援団リーダー部、バトン・チャリリーダー部員らも加わった50人。関大カラーの紫紺、金メダルをイメージした黄色、熱い気持ちを込めた赤など色が弾んだ。30分もたたないうちに台紙の白い

部分は埋め尽くされた。合計4枚に約250のメッセージがあった。この模様が新聞やテレビでも伝えられ、サポーターたちはテレビカメラを通じて両選手に声援を送った。

寄せ書きの2人分1セットはバンクーバーへ、そしてもう1セットは19日に凜風館で行われるフリー演技の応援会に持ち込む。

応援寄せ書きは、これまでに他競技でも届けられた。大学No.1になったアメリカンフットボール部が出場した1月3日のライスボウル(社会人王者の鹿島との日本一決定戦)。会場が東京ドームのため、応援に行くことができなかった学生が多数いた。そこで数枚の旗に寄せ書きをした。力を出し切ってほしいと思いを込めて。

今回のオリンピック会場はバンクーバー。高橋選手、織田選手が出場するフィギュアスケート男子シングルは氷の上では1人。同じ関大生として現地で声援を送れないのは悔しい。せめて声援を文字にして寄せ書きにしたい、バンクーバーのリンクに関大の空気を送りたい。そう企画したピア・コミュニティ運営本部の松田優一本部長(4回生)は「この時期は春休みだけに、人が集まるかどうか心配でした」と本音で振り返る。しかし、始まると瞬間に台紙の空白は色鮮やかな文字で埋まった。応援する気持ちがひとつになり、学生と学生の間につながりが生まれて、広がりを見た。

松田本部長にも笑顔がこぼれていた。あの寄せ書きで、バンクーバーの2人に氷も溶かすほど熱い関大生の思いを送れたからだった。

甲子園ボウルで大応援!

甲子園球場でピア・サポーターが「関大生のつながりの広がり」を実感したのは昨年12月13日、アメリカンフットボール全日本大学選手権の第64回甲子園ボウルだった。

今季のアメリカンフットボール部は関西学生リーグ前半に京大、関学、立命を倒す快進撃で大きな話題となり、61年ぶりにリーグ優勝、さらに甲子園ボウルへ駒を進めた。この快挙に、ピア・コミュニティ運営本部とピア・スポーツコミュニティは応援ツアーを共催し

た。応援ツアーにはピア・サポーター20人を含む150人が参加。ツアー開催に向けて、参加者を募るピラ配りは、アメリカンフットボール部員とピア・サポーターが千里山キャンパスで精力的に行った。

2万5000人が詰め掛けた中での熱戦で法大を50-38で破り、大学日本一まで駆け上がったアメリカンフットボール部。参加者は惜しめない拍手を送ったが、一方で法大の戦いぶりも大いに称えた。法大は学生支援GP連続シンポジウム「ピア・サポートの取り組みと新たな課題」を共催したピア・サポート仲間。甲子園ボウルの前には両大学の学生支援GP関係者が連

絡を取り合うなど、より関係を深めている。

つながりは、広がって強くなる。アメリカンフットボール部の大館賢二郎主将も「強くなるためにはコミュニケーションは必要なことだと考えています」と言う。今回の応援ツアーを通じて学生が多方面と連絡を密にできたことは、より大きなピア・サポートへの一歩となった。

